Sarva-mangala-mangalye ②

サールヴァ　　マーンガーラ－　　マンガリエー　　　シヴェー　サルヴァールタサーディケー

Sarva-mangala-mangalye Shive sarvarthasadhike;

すべての　　　　幸福　　　　幸福の源、幸福の化身　シヴァの妻　　すべての願いを叶える御方

シャランネェー　　　トリャムバケー　　　　ゴウリー　　　ナーラヤニー　　　ナモーストゥ　テー

Sharanye tryambake Gauri Narayani namostu te.

避難所　　　　　　三界の母　　 白い（肌の女神） 宇宙の母なる女神　 敬礼します

**＜賛歌集の訳＞**

おお、幸あるもののうちで、最も幸あるものよ！

おお、全ての祈りを叶えて下さる方よ！おお、全てのものの避難所よ！

トゥリヤンバカ及びガウリとしても知られる、シヴァの妻であるあなたにそのあなたに、

おお、ナーラーヤニよ、礼拝いたします。

**＜語句解説＞**

Sarva：全て、全ての種類、全てのもの

mangala：善い、幸福

mangalye：①全ての幸福の源　②全ての幸福の化身

「幸福」はアイディアだけです。化身の例は、シュリー・ラーマクリシュナはブラフマンの化身、神様の化身です。

例）「お母さんは愛の化身」：お母さんの中から愛が表れていると言うことです。

愛だけではわからないので目に見える形、化身として表現するのです。

愛が形となって擬人化され、体になるという事です。

アイディアだけだと精妙なのでわからない。形にならないとイメージが湧かないので形になりました。それが「化身」の意味です。

マザー・ドゥルガーは「幸福」が形として現れた「化身」です。

☞※1

Shive：幸福、Shvaの奥さん

　Shivaの女性名詞。Shiva（男性）Shive（女性）

※Shivaには、①幸福　②Shiva神、という２つの意味があります

　男性の神（シヴァ、ヴィシュヌ、クリシュナ、ラーマ、ラーマクリシュナ）は、全てShivaで、その奥さんは皆、Shiveと言うことが出来ます。

Sarvarthasadhike：Sarva＋artha＋sadhike

Sarvaサルヴァ：全て

arthaアルタ：目的　①お金・富　②人生の目的　☞※2

sadhikeサーディケ：満足する、叶う

全ての願い、全ての目的を満足させる人、叶える人、という意味

Sharanyeシャランネ：避難所

tryambake：try＋ambake

tryトリ：３つ

①３つの世界：1.この世界　2.天国　3.天国と世界の真ん中の場所

②眼：インドには３つの眼を持つ像があります。左右の目と、額の真ん中の目です。

　　　神や女神のヴィジョン（啓示的な顕われ）を見るのは、この額の眼です。

しかし普通の人がヴィジョンを見たと言うのは想像です。

左右の眼は普通の眼、額の眼はWisdom-eye（知性の眼）です。

③女神の眼：スーリヤ＝太陽、チャンドラ＝月、アグニ＝火。

これらはマザー・ドゥルガーの３つの眼です。（写真→）

ambakeアンバケ：お母さん

３番目の、天国と世界の真ん中をAntariksha-loka（アンタリクシャローカ）と言い、ここのお母さんがドゥルガー女神です。ラーマクリシュナ僧院の南アフリカセンターでは、賛歌の後に、♬アンベ、アンベ、パヴァナ、…キィジャイ♫（マハーラージ歌う）と歌っています。

Gauri：２つの意味があります。

①とても白い色のこと。Fair color。女神の皮膚の色がとても白いこと。

例えば、スウェーデンや秋田の人の皮膚はとても白いです。

②サットワという意味。３つのグナの、サットワで創った女神です。サットワの性質が一番多い。Visuddha Sattva、Pure Sattvaのこと、純粋なサットワです。

☞※3

Narayani：大きく２つの意味があります。

①神様の形をイメージした場合

（Ⅰ）Narayana：（語尾がaの時男性名詞）ビシュヌ神

（Ⅱ）Narayani：（語尾がiの時女性名詞）母なる神様、ドゥルガー女神

②もう１つの意味は、この宇宙が現れる前（創造の前）は、原因（Causal）の海の形。

宇宙が現れる前の状態は、水のようだとイメージされています。宇宙が創られる前は全部が水でした。

キリスト教の「聖書」の中にも同じことが書かれています。宇宙の原因の海に住んでいる女神がドゥルガーです。その時から創造が始まりました。

namostu te：敬礼します。

**＜解説＞**

この賛歌は、毎日、夕方の祈りのバジャンの最後に歌います。

「マールカンディーヤ・プラーナ」の中の『チャンディ』の一部分です。

**※１**

◆**マハーマーヤーの２つの姿**：①　ブラフマン

　　　　　　　　　　　　　　②　創造、維持、破壊

インドの偉大な神と普通の神、シヴァ、ヴィシュヌ、シュリー・ラーマクリシュナなども、１つの姿はブラフマンです。

もう１つの姿は、この宇宙を創造し維持し破壊する姿で、両方を合わせて包括的な姿です。

この賛歌「Sarvamangala」は、ブラフマンについてではなく、もう１つの姿のある神について歌っています。マザー・ドゥルガー（女神）の姿、つまりブラフマンではないもう１つの姿をイメージして創られたのです。

信者はブラフマンには祈りません。なぜなら、ブラフマンは純粋な意識だけで対象がないので、祈るということはないのです。祈りは神様と信者がセットになっています。ですから、神様がいなければ信者はおらず、信者がいなければ神様はいません。

「神様」と「絶対の真理」とは別な言葉で、「絶対の真理」は「神様」ではありません。

●神様：Personal-God

具体的な神様で、我々はその神様に祈ります。その神様は、我々の言うことを聞いてくれ、色々な願いを満足させてくれます。人間は自分のイメージで神様の姿を想像しています。

　宗教や神様のイメージが人によってバラバラなのは、そのせいです。

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは言いました。「もし、牛が自分の神様を想像すると、大きな牛をイメージする」と。牛は人間の形の神様を想像しません。自分の見方で考えるからです。我々は人間ですから、神様をイメージすると人間の形になるのです。自分たちのように２つの眼と耳を持ち、歩き、座り、聞くことができる人間の形の神様なのです。

●ブラフマン：

願いを聞いてくれると言うイメージがありません。ブラフマンは純粋意識ですから、耳はありません。したがって我々が沢山祈っても聞くことが出来ないのです。

耳だけではなく、眼も鼻もなく、体や感覚のイメージがありません。

**※2**

◆Purushartha：人間の人生の目的のこと。

**一般的な人生の目的**

一般的にはお金を稼ぐことです。そのしないと、生きていくことが出来ません。ヒンドゥー教の聖典では、お金を稼ぐことはいけないことではないとあります。お坊さんは一切を放棄していますが、家住者はそうではありません。子供たち、女性、年をとった人、病気のある人、お金を稼がないとその人たちをサポートすることが出来ません。

**人生の４つの目的** （ヒンドゥー教の基本的なアイディア）

①Dharmaダルマ（道徳）：全てのガイドライン。他の意味で「宗教」もありますが

ここでは道徳です。その中に宗教も入っています。

※ArthaとKarmaは道徳的な方法で満足させる＝Dharma（ダルマ）

非道徳的な方法でこれらを行う＝Adharma（アダルマ）

お金も結婚も必要ですが、大事なのは道徳的な方法で行うことです。

②Arthaアルタ（富）：お金を稼ぐこと。別の意味で「目的」。

③Karmaカーマ（欲望）：包括的な意味では全ての願い。

別な意味ではGeneration（一族子孫）のために生殖、子供を作ること。

④Mokshaモクシャ（解脱）：最高の目標、解脱です。

この４つは、人生の目的＝Arthaで「色々な目的、願い」です。

そしてそれは、ドゥルガー女神、マハーマーヤーが叶えます。

**※3**

◆**サットワについて**

サットワの中にも、サットワのタマス、サットワのラジャス、サットワのサットワがあります。

「ラーマクリシュナの福音」の中には、このアイディアが書いてあります。

隠れて盗む普通の泥棒は「窃盗（Thief）」。

お巡りさんを怖がらず堂々と盗む泥棒は「強盗（Robber）」ですね。

普通子供がお母さんにお願いする時、「お母さんお願いします。」と言います。

しかし子供が二人いた場合、もう1人の子供は、「お母さん、～してくれなければいけない」と強要します（Demand）。

信者と神様の関係も同じです。ある信者は、「神様、お願いします。」と祈ります。しかし別の信者は、「あなたは私のお母さんです。お母さんはどうして私を創りましたか？ 私の願いを聞かないといけない。」と言います。

神様と信者のことですから本当はサットワですが、この場合イメージがラジャス、タマスです。

●サットワのサットワ（Visuddha Sattva ビシュッダ・サットワ）

Visuddha Sattvaは、ラジャス、タマスが何もありません。

例：ホーリーマザーです。クリシュナの女性信者ラーダやラーマの奥さんのシーターも、ラジャスやタマスのイメージはありません。

　スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは後に、賛歌『Om Hrim ritan』の中で、シュリー・ラーマクリシュナのことを「Avatara-varishthaアヴァターラ・ヴァリシュタ」と言っています。「神の化身の中で一番です」という意味です。

他の神の化身には、サットワにラジャスが混じっているのに対して、シュリー・

ラーマリシュナのサットワには、ラジャスが全くないからです。

●サットワのラジャスの例：

ラーマはサットワですが、ラジャスがあり、「ラーマーヤナ」の中では悪魔と闘い殺しました。

　クリシュナにもラジャスがあり、カンサーや他の悪魔を殺しました。

「シュリマッド・バーガヴァタム」の中でも、クリシュナは悪人を殺しています。